

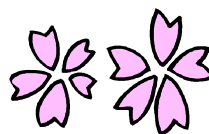
## Topic 1

## ◇ 今春入試合格体験記 合格者 喜びの声

### 中川雅晴くん

■合格大学：帝京大学 教育学部 教育文化学科

■学校名：県立草加南高校 ■校舎名：鳩ヶ谷校



#### ● 合格を手にしたの感想

最初は、偏差値が高く合格をあきらめていましたが、合格通知がきたときは自分でも信じられないくらい驚きました。受験を終えた後も、先輩から英語が大切だと聞いたので英語を中心に、学ぶことをやめないようにしています。

#### ● 将来の夢や目標は？

将来の夢は中学の社会の教員になりたいと思っています。社会の教員になりたいと思ったきっかけは、中学の社会の先生です。授業がとてもわかりやすく、興味を引き出してくれる先生で、私もその先生のようにわかりやすく、興味を引き出せる先生になりたいと思ったからです。

#### ● 大学・学部を選んだきっかけは？

帝京大学教育学部を選んだ理由は、「夢プロ」という教員を目指す人を応援するプログラムがあることに惹かれたからです。

#### ● 俊英館に入塾して良かったところは？

個別指導を受け、分からない所があると、わかるまで教えてもらい、分からない所もすぐにわかってとても助かりました。

#### ● 後輩へのアドバイス

1・2年のうちに十分やっておいたほうが良い科目は英語です。特に英単語の本を毎日少しずつでもやったほうが良いと思います。学校の授業は非常に大切なのでしっかりと受けたほうが良いです。部活などで勉強に手がつけられない人もいますが、忙しくても毎日1時間くらい机に向かうことが大切だと思います。

### K・Nさん

■合格大学：東洋大学 法学部 法律学科

■学校名：県立所沢高校

■校舎名：狭山入曾校



塾の先生から第一志望校の公募推薦の話聞き、11月の公募推薦を目指すことに決めました。3年生からは映像授業を受講しましたが、公募推薦で合格するという保証はなかったもので、夏休みから2学期にかけては一般受験に向けた勉強も行ないました。

映像授業では、特に児玉先生の現代文の授業はおもしろくて分かりやすいので好きでした。また児玉先生の小論文の授業で小論文の書き方も理解することができました。本番で焦らずに小論文を書くことができたのは、児玉先生の授業で自信がついたからだと思います。

## S・Kさん

■合格大学：跡見学園大学 マネジメント学部 生活環境マネジメント学科

■学校名：県立所沢西高校 ■校舎名：狭山入曽校

一番後輩のみなさんに伝えたいのは、1・2年生から頑張っていれば、絶対3年生で役立つし、自分の進路の幅が広がるということです。数学は特に基礎から応用へどんどん進んでいくので本当に大変でした。でも塾の先生に聞いてみると意外にできたりするので、無理だと思う問題でも取り組むことが大事だと思いました。

映像授業は3年生から始めましたが、速い速度で見たり、問題を解いているときは停止したりできるので、勉強時間がたくさん欲しい受験生の私にとって、とても便利でした。

## 近藤史登さん ■合格大学：日本大学 法学部 法律学科

■学校名：県立富岡高校 ■校舎名：富岡校



### ● 合格を手にしたの感想

まずは、推薦していただいた先生方と今までお世話になった塾に感謝しています。また、第一志望の私立大学に通わせてくれること、塾という恵まれた学習環境に長い間通わせてくれたことを両親に感謝しています。そして、早くに合格をいただいて、うれしさと安堵の気持ちでいっぱいです。

### ● 将来の夢や目標は？

私は、法律に携わる仕事につくことが将来の夢です。きっかけは、父が法律関係の仕事をしているので興味を持つようになったことと、高校に入って政治・経済の授業で法律にふれて、おもしろいなと思ったからです。

### ● 大学・学部を選んだきっかけは？

私がこの大学を選んだきっかけは、私が法学部に行きたいと知っていた顧問の先生が、すすめてくれたことがきっかけです。自分でも調べてみると、この大学には資格取得のための充実した環境があると思いました。たとえば司法書士研究会では、現役の人達が法律について教えてくれる機会などがあり、ここで勉強すれば早く資格が取れると思ったからです。

### ● 俊英館に入塾して良かったところは？

私が思う俊英館の良いところは、英単語道場や学習時間の記録、先生たちがいつでも質問に迅速に答えてくれることだと思います。私の場合、数学は映像だけではわからなかったので質問したらわかりやすく教えてくれました。また、映像授業では教えてくれないような解答方法を教えてくれることも…。そのおかげで数学の点数も上がりました。定期テスト前の日曜日も塾を開けていただいて助かりました。

### ● 後輩へのアドバイス

高校に入れば先生や親などみんなが口をそろえて、国語と数学と英語をしっかりと勉強しろと言いますが、1年生の時はこの3教科だけはしっかりとやるべきだと思います。私は手を抜いてしまって2年、3年で大変な思いをしたので、同じ失敗をしないでください。2年生になると文理選択もあり志望大学を決め始めるころでもあります。私立単願でも一応全教科をやっておくことをお勧めします（志望大学が変わることもあるので）。成績を上げるためには、先生に言われたことをしっかりとやってコツコツ勉強できるかどうかだと思います。

映像授業は、いつでも何回でも見られるという利点がありますが、映像に頼りすぎず、自分自身で考え、分からないところを先生方に教わることも大切だと思います。

最後に、富岡高校には学力向上のためのプログラムが用意されていますので、大学進学を考えている方は、ぜひ富岡高校に入学してください。

2015年の大学受験者数は、18歳人口の増加（前年比1.6%増）により、微増（約1%）となる見込みである。一般入試の志願者数は国公立大が約1%、私立大が約3%増と予想されている。国公立大の志願者数増は全体の受験生数増に比例していると考えられるが、私立大の志願者数増の背景には何があるのか？

### 1 「新課程理科」の影響

センター試験の実施方法が変わった理科。文系（主に中堅校）は「基礎」2科目、理系「発展科目」2科目受験の負担感から安全志向が継続。一方で私立大文系の一般入試では理科を課さず、私立大理系も一般入試・セ試利用ともに理科1科目（「基礎」＋「発展」）が多いことから、国公立大からの併願増、または志望変更が行われ、私立大志向が高まったと分析されている。

### 2 “文低理高” 傾向は続くが、“理系人気” はやや沈静化!?

理系は、ここ数年の反動から、理工・農・医の志願者増は小幅に留まり、歯・薬は国家試験の合格率ダウン（薬剤師79.1% → 60.8%、歯科医師71.2% → 63.3% 13年 → 14年の比較）の影響もあり、志願者減。また、看護系は学部・学科の新増設や定員増が目立ち、受け皿は拡大するが、志願者はすでに飽和状態とみられ、既設の学部・学科を中心に易化しそうである。

文系は、文・法・経などで志願者減が見込まれる。特に、法は、司法試験の合格率ダウン（13年26.8% → 14年22.6%）、相次ぐ法科大学院の募集停止など敬遠材料が多い。その中で、国際・外国語学部の人気は高く、志願者大幅増が見込まれる。2020年の東京オリンピックに向けて、日本の国際化はますます加速の方向にある。具体的には、小学生英語の低学年化や、上智大学を中心とした英語入試制度改革、東京都が中高生向け施設の「英語村」を開設する方針を固めるなど、英語熱は今や全国的な広がりを見せている。この他、将来的な教員採用率の低下を懸念し、教員採用系の志願者減が続くと予測されている。

### 3 私立大志願者増 — 「ネット出願」増加の影響大!?

私立大受験で最も注目されるのは、私立大全体の約3分の1が導入するに至った「インターネット出願（以下、ネット出願）」の新規実施と、それに伴う受験料割引（以下、ネット割）。15年度入試では、私立148大学（9月調査段階）が一般入試でネット出願を実施、14年より約7割増加。このうち、26大学が紙の願書を廃止し、71大学がネット割も実施する。14年度入試で近畿大が志願者数トップに躍り出る要因になるなど、「ネット出願」「ネット割」の導入は、学内併願の増加に繋がるため、志願者増の起爆剤になる。

国公立でも、昨年12月に四国の国立5大学が、2016年度学部入試からインターネット出願の受付を始めるという発表があった。「ネット出願」は、今後の大学入試の出願方式の主流となると思われる。



センター試験は、毎年1月中旬の土曜日・日曜日に、全国一斉に、同一問題で実施され、例年50万人以上が受験する試験です。国公立大の一般入試では1次試験としての役割を担い、私立大はセンター利用方式などで使用しているため、受験生の多くが受験します。その結果は、入試動向を左右することもあるほど、極めて重要な位置づけにあります。

2015年度センター試験で出題されたのは6教科・31科目。受験生は、その中から、各大学が指定している教科・科目を受験しました。センター試験は全てマークシート方式で、限られた時間で多くの問題に対応する力が重要となります。

試験後、公表された解答や配点を見て自己採点を行います。国公立大を受験する場合は、その自己採点結果をもとに、出願する大学を決めることとなります。私立大学のセンター利用方式は3教科が中心で、センター試験の成績だけで合否を判定する 경우가ほとんどです。

■2015年度 センター試験の主なスケジュール



■センター試験を利用する入試の典型的なパターン

入試教科と科目数	<p><b>5(6)教科7(8)科目が大半</b></p> <p>国立大 募集人員の約75%が、5教科7科目以上を課す入試。典型的な科目構成は、「文系型」「理系型」、選択次第でどちらにもなる「文・理融合型」に分類できる。</p>	<p>「国語、数学2科目、外国語」に加え、 【文系型】地歴・公民2、理科[基礎2](or[発展1]) 【理系型】地歴・公民1、理科[発展2](or[基礎2+発展1])(※) ※看護・医療系では、理科[基礎2]or[発展1]も少なくない 【文・理融合型】「地歴・公民、理科」から3(4)科目など</p>
	<p><b>3教科3科目～5教科7科目など</b></p> <p>公立大 国立大とは対照的で、5教科7科目以上を課す入試での募集人員は全体の20%程度である。</p>	<p>【文系型】「国語、外国語」がベース。 大学により地歴・公民、数学、理科[基礎2](or[発展1])が加わる 【理系型】「数学2科目、理科[発展2](or[基礎2+発展1])、外国語」がベース(※)。大学により国語、地歴・公民が加わる ※看護・医療系は、理科[基礎2]or[発展1]がメイン</p>
	<p><b>2教科2科目～3教科3科目が中心</b></p> <p>私立大 選択教科は幅広く、右記以外の教科から選択できる大学も多い。中堅上位から難関大では4教科4科目～5(6)教科7(8)科目の重量入試もある。</p>	<p>【文系型】国語、「地歴・公民、数学から1科目」、外国語 【理系型】国語、数学1～2科目、理科[基礎2]or[発展1]</p>